

高知市市民活動サポートセンター季刊誌

えぬひい！ Oh!

2014 夏
Vol. 57



▶2P

Welcome to Kochi! ようこそ高知へ!
高知SGG善意通訳クラブスタッフによるおもてなし

▶3P

スペシャルオリンピックス 日本・高知
一年中、世界中で開催されるオリンピック

▶4~5P

EARTH DAYS 2014 KOCHI
次世代にのこしたい生き方

▶6P

香美市への移住応援サイト いなかもライフ
サイトで田舎暮らしを再定義

▶7P

コミュニティースペース お城下ベース
こどももおとなもきてみいや





Welcome to Kochi!

ようこそ高知へ！

高知SGG善意通訳クラブスタッフによるおもてなし

以下高知SGGと表記)のスタッフです。



オーストラリアを出航し、東南アジア、香港、中国を回ってきた大型客船サン・プリンセス号が、約900人の乗員乗客を乗せ、平成26年4月20日日曜日の朝7時、高知新港に停泊しました。

○赤いベストと腕章がEnglish staffの身分証明

困ったことや質問したいことがある場合、English staffの表記のある赤いベストを着用し腕章を付けたスタッフが英語で対応するとの説明が、あらかじめクルーズの乗員乗客になされていま

乗員乗客の皆さん(9割以上が英語圏の方々)に高知をご案内したのが、高知SGG善意通訳クラブ(代表 弘間善郎さん)です。街のコンシェルジュ降り立つた

なつて、高知新港から市街地へ向かうシャトルバスの発着地である岸壁観光案内所とはりまや橋臨時観光案内所、観光スポットであるよさこい交流館。日曜市高知城の各ポイントで乗員乗客のみなさんを待ち受けます。また、市街地を巡回しながら対応するメンバーも割り当てられました。



高知城では、追手門・板垣退助銅像前と天守閣の2か所に案内ポイントを設置。歴史や自然、建物の構造を熟知したスタッフが待ち受けます。降り出した雨に、「傘はお持ちですか?」等の細やかな対応も。

○高知らしいおもてなし

「次の停泊地である横浜と高知でのおもてなしに、差があるとすれば何でしょうか?」の問い合わせに、高知SGGのスタッフの一人から、「まさに『高知家』ですよ。高知県民が一丸となつて、街中でおもてなしをされています」と答えが返ってきました。

高知新港では、歓迎セレモニーが始またり、土佐長宗我部鉄砲隊の演武や土佐おもてなし勤王党的パフォーマンス、市内のアーケードではお茶席が設けられ和服姿での抹茶と饅頭のお接待、高知城では日本抜刀道高知支部による演武など、県民が一丸となつておもてなしをしていました。出航時の高知新港では、よさこい踊りやマーチング演奏で乗員乗客の皆さんを送り出していました。

その要所に、笑顔で外国の方をガイドする高知SGGスタッフの姿がありました。笑顔の向こうには、毎週勉強会を行ない、英語のコミュニケーションスキルの上達を目指し、高知の歴史や地理への造詣を深め、どんな質問にも答えられるよう地道かつ真摯に努力を重ねてきたスタッフの誇りが垣間見えたのでした。

(あおき)

スタッフは、持ちうる全ての知識をフル稼働し、相手の立場に立つて、一番喜ばれるであろう回答を、分かりやすく丁寧に伝えます。お店などの目的地まで、一緒に歩くこともしばしばです。会話を続ける中で、お相手の人柄、家族、出身国のことなどを理解し、親交を深めることが多いようです。

●高知SGG善意通訳クラブとは (<http://kochisgg.web.fc2.com/index.html>)
1988年8月創立。“民間外交官”として、外国人観光客や在住外国人の観光案内等を通して、高知県の観光の一翼を担っています。英語だけではなく韓国語、中国語の通訳にも当たります。毎週日曜日とゴールデンウィークは、高知城ガイドを行っています。ガイドご希望の方は、上記HPより連絡してください。
平成25年4月現在 会員数:82名(英語59名、韓国語12名、中国語11名) なお、SGGとは(Systematized Goodwill Guide の略)



スペシャルオリンピックス 日本・高知

一年中、世界中で開催されるオリンピック

高知大学で毎日曜日行われている陸上部のトレーニングを見に行つた。アスリートと呼ばれる選手達はグラウンドで短いダッシュを繰り返している。初期からボランティアでコーチを務める日高養護学校の江口正人先生が、「笑顔でね」「ゆっくりでいいからね」と声をかける。保護者でもあり、陸上部の責

●トレーニング風景

日本でも全都道府県に広がっている。高知では、NPO法人スペシャルオリンピックス日本・高知が、陸上競技、フロアホッケー、水泳、ボウリング、バスケットのプログラムを、毎週のように行つている。また、運動会やクリスマス会など交流の機会も充実している。



フロアホッケーの様子

スペシャルオリンピックスの活動は、日本でも全都道府県に広がっている。高知では、NPO法人スペシャルオリンピックス日本・高知が、陸上競技、フロアホッケー、水泳、ボウリング、バスケットのプログラムを、毎週のように行つている。また、運動会やクリスマス会など交流の機会も充実している。

きめ細やかな活動を支えていいな活動は、定期的に開催される事務局会とボランティアや企業の支援者だ。

「筋力もついて元気になつた!」をさした保護者が力をこめる。「明日陸上よと言うと、前日からウェアも準備して早起きしてね」「コースを離れた子を姿が嬉しい」と語る。



●健康と自立と自信

「筋力もついて元気になつた!」をさした保護者が力をこめる。「明日陸上よと言うと、前日からウェアも準備して早起きしてね」「コースを離れた子を姿が嬉しい」と語る。

学生から20代まで13名。自分の能力を引き出すことが目的だが、仲間とのリラックスした競い合いを、とても楽しんでいる。



「2011年世界大会・アテネ」で走る、
高知県の大里宏美さん

多くの人達に支えられ、今週もオリンピックスは開催されている。
(たまき)

クであるスペシャルオリンピックスは、1962年から始まり世界中に広まっている。オリンピックスと複数形で表記するのは、大会以外の日々のトレーニング一つがオリンピックであり、それが年間を通して世界中で行われているからだ。

●広がる活動

知的障害のある人のためのオリンピックであるスペシャルオリンピックスは、1962年から始まり世界中に広まっている。オリンピックスと複数形で表記するの



EARTH DAYS 2014 KOCHI

次世代にのこしたい生き方

アースデイとは？

アースデイは1970年4月22日に公害問題が深刻になったアメリカでの環境についての討論集会が始まりで、これをきっかけに環境保護庁の設置や環境関連法の整備へとつながっていった。この日をアースデイ（地球の日）とした活動は世界に広がり、1990年には日本でも「アースデイ・1990・日本」が行われ多くの団体が参加した。同年、アメリカから来ていた男性の「みんなで地球のことをお祝いしよう」との提案から高知での取り組みが始まり、毎年4月22日に近い土日に開催されている。

「アースデイズ」と複数形になつてるのは特別な一日だけではなく、毎日が「地球を考える日」であつて欲しいとの願いが込められているからである。

4月27日(日) 城西公園野外ステージおよびその周辺で「EARTHDAYS2014KOCHI」がおこなわれた。(以下、アースデイズ)
イベントの前日は雨が降り開催が危ぶまれたものの、当日は快晴となった。まるで空が25回目という節目を祝福してくれているかのような陽気であった。



お昼ごはんの青空市は体にやさしいもの、有機栽培のものなど一つ一つにこだわりがある



一般の来場者も飛び込みでフラダンスマンバーの一員に！



会場の城西公園野外ステージでは様々なジャンル（ブルーグラス、オーラク、民族音楽など）の音楽がアーティストたちによって奏でられ、タヒチやアフリカのダンスが披露されていた。
また、自然素材を活かしたものづくりや料理、展示といったコーナーに分かれテントが立ち並んでいた。参加者は気に入ったテントの前で足を止めて眺めていた。出店者との会話や呼び込みの声でたいへんにぎやかな雰囲気で地球の誕生日をみんなで祝っていた。

みんなで祝う地球の誕生日

思い思いの表現方法で伝えあう穏やかなつながりのある場所であつてほしいと思つています。

内田洋子



素材を活かしたモノづくりのコーナー。
自分だけのカトラリーワークもできる

パネルによる活動紹介や、環境問題に関する展示コーナー



▼風呂敷一枚分のリサイクルバザー「ふるしきひろげまSHOW!!」



代表の内田洋子さんにアースデイズへの思いを聞いた。
「私たちそして子供たちが幸せに生きることと環境は切り離して考えることはできません。環境問題は遠いことのように思っている人も多いですが、危惧されている日はすぐにやつてきます。私たちはアースデイズが次世代に伝えたい環境や生き方を料理や芸術など、思い思いの表現方法で伝えよう穏やかなつながりのある場であつてほしいと思っています」

思い思いという言葉の通り、会場では音楽が流れ、作品を展示し、料理やお菓子など統一しているものは何もなかった。しかしゆったりとした風が吹く中で、おもむろに足を止めてテント内を眺め、話を交わし音楽に耳を傾け、体を揺らす人々を見ているうちに「伝えていきたい生き方」がわかつた気がした。

(藤田早紀)

四半世紀を迎えて





香美市への移住応援サイト

いなかみライフ

サイトで田舎暮らしを再定義

● いなか暮らしの可能性

近年、インターネットが活用され、広く情報発進の分野において様々なアプローチがされている中に香美市への居住者支援を目的として立ち上がったサイトがある。特定非営利活動法人FUSEの企画で運営開始した「いなかみライフ」である。いなか暮らしを再定義するというコンセプトのもと、香美市内の空き家情報や地域活性化に取り組んでいる学生の活動など、香美市の様々な情報をコンテンツごとにブログ形式で発信している。地域を離れて設備の整った近隣に移住する撤退戦略ではなく、田舎の可能性を信じ移住促進に取り組む「いなかみライフ」の活動を当サイトの管理人代表である近藤^{じんとう}さんに伺つた。

● 特徴

「いなかみライフ」の特徴は、見やすく幅広いジャンルのコンテンツと各記事のタイトルの付け方にある。「住まい」や「楽しまる」などのコンテンツをアイコン化しており、利用者が視覚的に分かりやすい工夫を施している。さらに、香美市の暮らしや仕事など移住した「後の暮らし」を発進することで移住からその後の暮らしをイメージさせる狙いがある。また、興味を引くタイトルの付け方をすることで、利用者が欲しいと思っていた情報以外の学びや移住に関しての学びや発見を更に増やしてほしいという想いが込められている。単なる移住にスポットを当てていらないも「いなかみライフ」の魅力である。

興味を引くタイトル

見やすいコンテンツ配置

● 最後に

最後に、近藤さんに今後の「いなかみライフ」のあり方について尋ねてみた。即答で返ってきた答えは、「地域の情報発信サイト1位を目指す」であつた。情報発信するためには、そこにしかない魅力を引き出し、とりまとめて共有して活性化していく。それを達成するためには地域住民や移住者の協力が不可欠だと近藤さんは語った。「みんなで行う地域づくり」を実践している「いなかみライフ」のこれから

● 人気ブロガーイケダハヤトさんも絶賛

(高知工科大学 情報学群3回生
山崎 祐弥)



コミュニティースペース

お城下ベース

こどもも おとなも きてみいや

メイン活動の一つに、絵本の読み聞かせやパネルシアター、手遊びなどの「おはなし会」がある。城下さんは「おはなし会隊」の隊長。仲間と共に県内各地を訪れ、おはなし会を行ってきた。ここでは、おはなし会の常設小屋としてバ

●おはなし・来てみいや

発起人は城下美穂さん。高知城のすぐそばであることや城下さんにちなんで、「お城下ベース」と命名された。場所を決めるにあたって、「街中であること」、「親子で立ち寄りやすいこと」などを条件に探したところ、候補に挙がったのが大橋通り商店街、かつお節屋さんの2階。以前は、「まちの駅」があつた場所の北隣である。まちの駅で活動していた人たちの中には、そこがなくなつたことに対する寂しさや残念に思う気持ちがあつたという。まちの駅のような温かな交流の場を目指し、「お城下ベース」として、新たな「コミュニティースペース」が誕生。

お城下ベースでは、休憩などの一時利用、定期で開催するおはなし会の参加、

●おまち・見てみいや

着物で出かけた際の着崩れのお直しなど、駆け込みどころとして利用することもできるので、安心して着物で街へ出かけてほしい。



オープニングにはこども大人も一緒にサプライズイベント

※きもの文化検定

一般社団法人全日本きもの振興会主催。年に1度全国で一斉に行われる検定試験。「きもの文化」への理解を深め、「きもの」に親しむことを目的としている。

6月29日、大橋通り商店街に新たなコミュニティースペースがオープンした。子どもから大人まで、ちょっととした休息スペースとして、文化発信の基地として、さまざまな活動の拠点として利用することができます。

●お城下の基地

定期的開催は第二火曜日と第三月曜日、午前11時より。開催時間以外でも希望があれば、随時受け付けられ。



楽しい仕掛けに夢中になるパネルシアター

ネルシアターなどを定期的に開催する。定期的開催は第二火曜日と第三月曜日、午前11時より。開催時間以外でも希望があれば、随時受け付けられ。

ここでは、和文化を楽しむ場として、子どもには着物を着て食べること作ることを通しての楽しい和文化を実践・体験できる。また、大人向けにきもの文化検定(※)の受験を目指とした、「土佐きもの学舎」の扉の部を開講。着物といふと難しく感じる方も、実際の着物を見ながら、基礎的なことから楽しく学んでいく。子どもも大人もまずは着物を着て、「その気」になることが楽しみへの第一歩である。

今後、大人向けのおはなし会や着物で街を歩くコースの企画なども予定している。活動の「基地」として、お城下ベースをきっかけに新たなつながりや交流ができる、楽しい活動が生まれることを期待している。

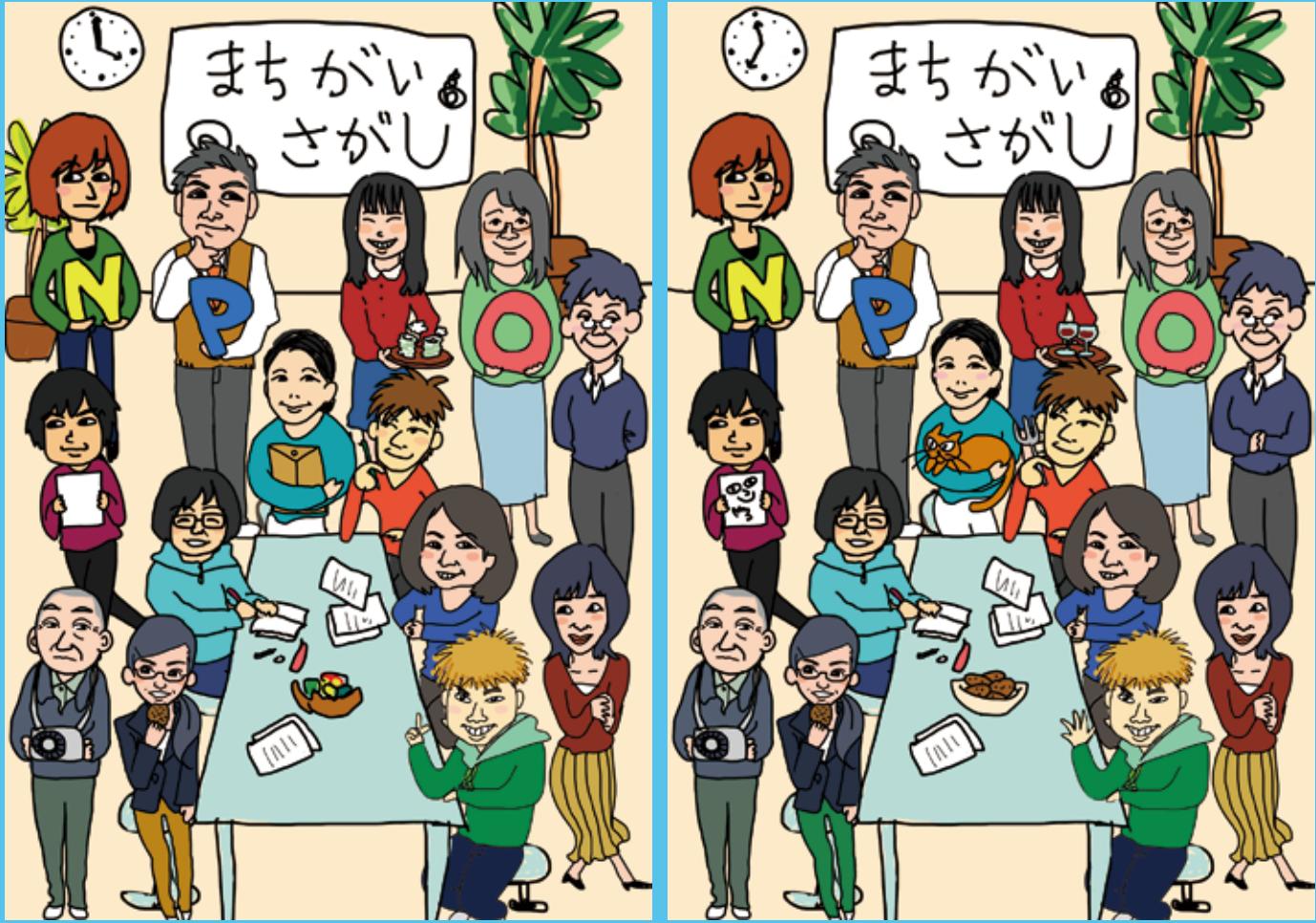
(おおの)

着物のお直しなど、無料で利用することができる。

その他、ここで活動したい人は年間3000円の会員登録をすることで、手作り雑貨、お菓子など出店ができる。貸切り(利用料別途)で個展やワークショップの開催も可能である。会員特典は、ここでのおはなし会付きベースデーパー

間違い探し

間違いは全部で 10 個!!



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人

NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

月～金／10:00～21:00 土／10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : npokochi@siminkaigi.com

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@森岡
あっという間に過ぎる毎日。気がつくと週末！そんな中、職場に隣接する幼稚園から園児の歌声♪癒される～！
さあ頑張ろう！



@のむ
一面緑の田園風景の真っ只中、テレビも新聞もみない、研修づけの3日間。参加者からのエネルギーを力にかえ、さあ頑張ろう！



@門田
先日、音楽イベントにピアノ出演してきました。多くの子どもと触れ合い、音楽によるコミュニケーションがとれました。



@のと～
予定帳がぐちゃぐちゃになる毎日。
友達にも心に闇を抱えていると疑われる始末。
僕は大丈夫です。充実しています



@しのみや
吉里吉里、陸前高田、気仙沼、石巻、東北支援も3年目に入った。進むのは土木工事だけ。生活復興ははるか遠き道のり。



@おかむら
出不精で県内ですら行ったことない場所ばかりだったのに、ここ最近いろいろ旅行（就活）ができる楽しいです。



@横田
弁当のおかずが混ざってしまうのが耐えられない。なので、一品ずつ密封容器詰めしているが、当然かさんで大きな包みに。弁当を食べるために出勤しているように見える荷物に我ながら苦笑。



@岩貞
このところ指のケガが絶えず奮発してお高い絆創膏を購入。防水性って書いてあるのに水に濡れるべラべらと剥がれるありさま。やぶれかぶれで100均の絆創膏を購入したところ、なんと!! 水に濡れても剥げない優れもの。100均えらいぞ！